

## 週報

## 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成 28年												平成 29年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月 ~2日	7月 ~9日	7月 ~16日	7月 ~23日	7月 ~30日	8月 ~6日	8月 ~13日	8月 ~20日	8月 ~27日	9月 ~3日
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	83	118	24	26	45	20	27	18	17	24	24 (26)	21
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	64	135	30	53	39	43	41	27	49	32	51 (53)	26
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	10	13	3	2	6	2	5	12	6	7	4	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	9	21	7	6	6	4	9	2	5	4	6	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	15	23	6	10	5	3	3	5	2	3	6	4
腸炎ヒプリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	5	0	0	0	5	4	3	2	1	4 (5)	1
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	6	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	11	13	2	4	1	1	0	0	0	0	2	0

- \* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
- \* 前回のその他の1件増は、プレジオモナスでした。
- \* その他の1件は、プレジオモナスでした。

### 広島県感染症発生動向週報

平成29年第35週(8月28日~9月3日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	12	結核	12	2	4	1		1	2	2
三類	5	細菌性赤痢	1					1		
		腸管出血性大腸菌感染症	4			2		1		1
四類	3	日本紅斑熱	3			3				
五類全数	3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1					
		梅毒	2					2		

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

- 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第35週 8/28～9/3)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. RSウイルス感染症

定点当たり4.13人の報告があり、前週の1.8倍に増加しました。また年齢別では、1歳以下の報告数が全体の75.3%を占めています。

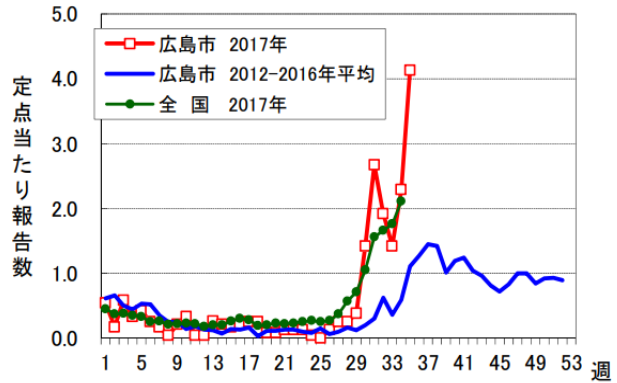
RSウイルス感染症の症状は、軽いかぜのようなものから細気管支炎や肺炎などの重篤なものまでさまざまですが、生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、感染を避けるための注意が必要です。

引き続き、咳エチケットや手洗いの励行、おもちゃやてすりなどはこまめに消毒するなど、感染予防対策を徹底しましょう。

2. インフルエンザ

定点医療機関から21人(定点当たり0.57人、迅速診断キットA型陽性:20人、B型陽性:1人)の報告がありました。

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
インフル	インフルエンザ	21	0.57	-			小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.50		
	咽頭結膜熱	8	0.33	0.58			眼科	RSウイルス感染症	99	4.13	1.11		▲
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	1.58	0.84		↗	眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.03		
	感染性胃腸炎	97	4.04	3.69		↗	眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	1.10		
	水痘	6	0.25	0.38		▼	眼科	細菌性髄膜炎	-	-	0.03		
小児科	手足口病	56	2.33	1.57		↗	眼科	無菌性髄膜炎	-	-	0.17		
	伝染性紅斑	2	0.08	0.19			基幹	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.40		
	突発性発しん	5	0.21	0.49			基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	百日咳	-	-	0.06			基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	23	0.96	0.80		↗							

急増減 ▲ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ▲ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ▲ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい □ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	99	男性(70歳代)
3	細菌性赤痢	1	1	女性(10歳未満)・推定感染地域: 国外
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	8	女性(10歳代)・O157
5	梅毒	2	46	男性(30歳代)・1人、女性(40歳代)・1人

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(39.9) 上気道炎	1	男	2017/07/19	咽頭拭い液	Aデノウイルス1型
その他の消化器疾患	腸重積	3	男	2017/07/24	糞便	Aデノウイルス2型
その他の消化器疾患	下痢	2	男	2017/07/25	糞便	Aデノウイルス3型
その他の発疹性疾患	発熱(39.0) 紅斑 リンパ節腫脹	3	男	2017/07/15	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスB2型
その他の疾患	発熱(39.8)	0	女	2017/07/21	鼻汁	Eコーウイルス25型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載